

第104回卒業式を挙

日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行人 中原 泉
編集人 偶数月末日
発行日 1部10円
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



大学のシンボルマーク



学長告辞に聞き入る第104回卒業生たち (3月11日・東京)

両学部173名が巣立つ

卒業証書番号No.二〇六九三号に

日本歯科大学第一〇四回卒業式(学位記授与式)は、三月中旬両学部において挙行政し、一七三名の学士(歯学)を送り出した。あわせて日本歯科大学大学院第五十二回修了式が催され、十八名に博士(歯学)の学位記が授与された。また、東京短期大学と新潟短期大学の卒業式も挙行政された。

第52回大学院修了式を併催

生命歯学部

併催して挙行政された。定刻午前十時、司会の高橋孝幸庶務部長が開式を宣した。まずクラス主任の代居敬教授より、平成二十六年卒業生五十二名に学位記を授与された。

一〇五名の氏名が呼びあげられ、花谷佳菜子さんが代表して、中原泉学長より、栄えある卒業の証として学位記(歯学)の学位記を授与された。



卒業生代表に学位記が手渡される (3月13日・新潟)

精勤賞十八名、学術奨励賞十名、臨床実習優秀賞三名の受賞者に対しに賞状等が授与された。

ついで大学院生命歯学研究科委員の新井一仁教授より、大学院生命歯学研究科博士課程修了生十二名の氏名が呼びあげられ、修了生一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。

ついで中原学長、羽村章生命歯学部部長、八重垣健大学院生命歯学研究科長が告辞(別掲)を述べた。ついで在学学生を代表して第五学年の岡本裕介君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して大山豪君、修了生を代表して金澤卓也君が答辞を述べた。終わりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱した。

新潟生命歯学部
新潟生命歯学部の部は、三月十三日に新潟生命歯学部講堂において、大学院第五十二回修了式

を併催して挙行政された。定刻午前十時三十分、司会の羽下憲善事務部長が開式を宣した。クラス主任の葛城啓彰教授により、平成二十六年卒業生六十八名の氏名が呼びあげられた。服部陽一君が代表して、中原学長より、栄えある卒業の証として学位記(歯学)の学位記を授与された。ついで学術優秀賞六名、精勤賞三名、学術奨励賞八名、臨床実習優秀賞一名の受賞者に対しに賞状等が授与された。

して第五学年の久代洋貴君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して服部陽一君、大学院修了生を代表して五十嵐健輔君が答辞を述べた。おわりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱した。

東京短期大学
東京短期大学の卒業式は、印出光宏短大事務長の司会で、三月十日午前十時より、生命歯学部富士見ホールにおいて挙行政された。

まず第四十二回歯科衛生学卒業生七十六名と、第四十六回歯科理工学卒業生三十五名の氏名が呼びあげられ、小口春久学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科衛生学)と短期大学士(歯科理工学)の学位記が授与された。

ついで三代冬彦病院長は「みなさんには、医療人としての研鑽義務が仕事をしつゝ限り続きます。今までは教えてもらっていたが、これから自分で読み、聞いて勉強していく、講習会などにも積極的に参加し、自分たちで頑張っていたことを誇りに感じたい」と祝辞を述べた。

ついで第六回専攻科歯科衛生学専攻修了生十名と専攻科口腔リハビリテーション学専攻修了生二名、第四十四回専攻科歯科理工学専攻修了生六名、第二回専攻科総合技工学専攻修了生八名に修了証が、各賞の受賞者に表彰状が授与された。

そして専攻科歯科衛生学専攻修了生と専攻科歯科理工学専攻修了生は、独立行政法人大学評価・学位授与機構より学士(口腔保健学)の学位を取得したことが報告された。

ついで小口学長が告辞(別掲)を述べ、来賓の羽村章生命歯学部部長が「みなさんはそれぞれの道を行っていくが、この学校で学んだ三年間、二年間はきっと一生の思い出になるだろう。これから困ったときには、仲間や先輩たち後輩たちが手を差し伸べてくれる。何よりも先生たちが君たちを助けてくれるだろう。それを忘れずに歩んでほしい」と述べた。

ついで三代会長(新潟短期大学)より学術優秀者に手渡された。第三十回卒業にあたり、卒業生から新潟短期大学に記念品が贈呈された。ついで専攻科歯科衛生学専攻修了生五名、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生一名、専攻科がん関連口腔ケア学専攻修了生一名に修了証書が授与された。専攻科歯科衛生学専攻修了生に対し、独立行政法人大学評価・学位授与機構から授与された学士(口腔保健学)の学位記が、又賀学長から手渡された。

平成27年度 日本歯科大学歯学会大会

メインテーマ：健康寿命と歯科医療

日時：6月6日(土) 11:00~16:30

会場：新潟生命歯学部講堂・アイヴィホール

○公開シンポジウム

*基調講演
高森 等 先生(附属病院口腔インプラント診療科)
「健康寿命に対するインプラント治療の役割」

*シンポジウム
廣安一彦 先生(新潟病院口腔インプラント科)
「インプラント治療の長期安定性を得るために」
菅原佳広 先生(新潟病院総合診療科)
「若さと美しさのために歯科治療でできること」
中原 賢 先生(新潟生命歯学部先端研究センター)
「噛むことの大切さー口の中の健康寿命とは?ー」

○学術研究奨励賞受賞講演
○研究発表：ポスター展示

大会長 吉江紀夫(新潟生命歯学部解剖学第2講座)
問合せ：準備委員長 辻村麻衣子
(解剖学第2講座・TEL 025-211-8113)

新潟短期大学
新潟短期大学の卒業式は、須貝将紀短大事務長の司会で、三月十二日午前十時三十分より、新潟生命歯学部講堂で挙行政された。

まず第三十回歯科衛生学卒業生五十七名に、又賀泉学長から短期大学士(歯科衛生学)の学位記が授与され、各賞受賞者が表彰された。

次に公益社団法人日本歯科衛生士会からの表彰状が、新潟県歯科衛生士会の三富純子会長(新潟短大准教授)より学術優秀者に手渡された。第三十回卒業にあたり、卒業生から新潟短期大学に記念品が贈呈された。

ついで専攻科歯科衛生学専攻修了生五名、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生一名、専攻科がん関連口腔ケア学専攻修了生一名に修了証書が授与された。専攻科歯科衛生学専攻修了生に対し、独立行政法人大学評価・学位授与機構から授与された学士(口腔保健学)の学位記が、又賀学長から手渡された。

ここで又賀学長が告辞(別掲)を述べ、来賓の関本恒夫新潟生命歯学部部長が「近年、口腔の健康

が糖尿病や心疾患、がん、認知症などの病態に大きく関わっていることが明らかになった。口腔の健康を維持することで、これらの疾患を予防し症状を軽減することができると言われている。歯科衛生士に対する社会のニーズは急激に高まっております。チーム医療の一員として医療に携わるには高度の知識とコミュニケーション能力が求められる。みなさんも高いハードルをエネルギーに変えて前進してほしい。歯科医師とともにチーム医療を担う歯科衛生士として大きく成長されることを祈念する」と祝辞を述べた。

辞令
医療職員 小林 裕子(看護師)
新潟病院看護科看護師長を命ずる
平成二十七年一月一日 本学

中原泉学長卒業告辞

わが国の超高齢社会は人口の四分の一が高齢者となり、社会のあらゆる方面に大きな影響を及ぼしている。なかでも最も深刻なのは医療界である。歯科医療も疾病構造が短期間の間に激変した。そのスピードと量は、かつて経験したことのない変化である。

私は昭和四十年代のむし歯の洪水に続く第二の洪水と呼んでいる。平成二十三年度の歯科疾患実態調査では、八十歳での歯の喪失状態が大きく改善したことが明らかとなった。8020達成者は、確定値で40・2パーセントにも達した。二十

年前に8020運動が始まった時には、8020は達成不可能だと言われていた。この予想外の達成は大変喜ばしいことだが、私どもは新しい難しい課題に直面することになった。

まず臨床研修歯科医の意識調査について話したい。平成二十四年度厚生労働科学研究費事業の調査報告によると、臨床研修医が考える「今後の歯科のニーズ」と「主に取組みたい分野」の二つについて調査した。前者の今後ニーズが増加する分野として、研修医はトップ5(ファイブ)

に、①高齢者歯科、②在宅歯科、③予防歯科、④在宅歯科、⑤再生医療、⑥審美歯科、⑦インプラントと「審美歯科」が位置づけられている。

この五つを挙げている。これに対して、後者の研修医が主体的に取組みたい分野のトップ5は、①予防歯科、②歯周病、③審美歯科、④有床義歯、⑤高齢者歯科の順だった。両者を比べると、研修医がいうニーズが増える分野と、自分が重点を置きたい分野に

一致している。一方、平成二十五年国民健康・栄養調査によると、平成十六年の十年前と比較してどの世代においても、「何でも噛んで食べることができない者」の割合が増加し、「食べ

られないが、両分野はその後現在に至るまで広く普及したと評価している。

健康・栄養調査のデータは、今後も改善されていくだろう。けれども口腔ケアのバイオニアである本学六十八回卒の米山武義先生は、①高齢者の残存歯数が急増している、②疾病や障害をもつ高齢者も急増している、と警鐘を乱打している。

米山先生は、もはや歯科医師が目を背けてはいられない切羽つまった問題として、老年歯周病学を抱えている患者さんが急増している、②メンテナンスが歯科医院の中だけで終わってしまったている、③在宅医療を支える歯科医療者が全面的に足りない、④一度つくられた義歯はそのまま放置されている、⑤インプラントケアは歯科以外の職種ではお手上げの状態である。



中原泉学長：これからは、待つ歯科医療から、出むく歯科医療へと変わっていくだろう…

けられていたが、両分野はその後現在に至るまで広く普及したと評価している。

一方、平成二十五年国民健康・栄養調査によると、平成十六年の十年前と比較してどの世代においても、「何でも噛んで食べることができない者」の割合が増加し、「食べ

られないが、両分野はその後現在に至るまで広く普及したと評価している。

健康・栄養調査のデータは、今後も改善されていくだろう。けれども口腔ケアのバイオニアである本学六十八回卒の米山武義先生は、①高齢者の残存歯数が急増している、②疾病や障害をもつ高齢者も急増している、と警鐘を乱打している。

米山先生は、もはや歯科医師が目を背けてはいられない切羽つまった問題として、老年歯周病学を抱えている患者さんが急増している、②メンテナンスが歯科医院の中だけで終わってしまったている、③在宅医療を支える歯科医療者が全面的に足りない、④一度つくられた義歯はそのまま放置されている、⑤インプラントケアは歯科以外の職種ではお手上げの状態である。

私が察するに米山先生の言いたいことは、これまでのように歯科医院に来院する患者さんを診療するだけが、歯科医師の務めではない時代になったということだろう。高齢化により歯科医院に来られない患者さんが洪水のように急増し、これまで通院していた患者さん

も高齢化していき、次々に来院患者が減っているのが現状だろう。つまり在宅、老健施設、病院で苦しんでいる歯科の患者さんが、圧倒的な勢いで増えているのだ。

今後の超高齢社会における歯科医療は、「待つ歯科医療」から「出むく歯科医療」へと変わっていくだろう。この観点から次の五つを指摘された。①不良な口腔衛生状態によって感染症を抱えている患者さんが急増している、②メンテナンスが歯科医院の中だけで終わってしまったている、③在宅医療を支える歯科医療者が全面的に足りない、④一度つくられた義歯はそのまま放置されている、⑤インプラントケアは歯科以外の職種ではお手上げの状態である。

この調査報告は、キャリア向上のためにニーズが見込める分野を早期に見極めて、自分が進むべき方向を決めることが重要なのに、今回の平成二十四年度の研修医に、二一歳の強い「在宅歯科」や「摂食・嚥下」を取り組む意欲が見られないと指摘している。七年前の平成十七年度の調査では、二一歳の増加の上位に「インプラント」と「審美歯科」が位置づ

けられていたが、両分野はその後現在に至るまで広く普及したと評価している。

健康・栄養調査のデータは、今後も改善されていくだろう。けれども口腔ケアのバイオニアである本学六十八回卒の米山武義先生は、①高齢者の残存歯数が急増している、②疾病や障害をもつ高齢者も急増している、と警鐘を乱打している。

米山先生は、もはや歯科医師が目を背けてはいられない切羽つまった問題として、老年歯周病学を抱えている患者さんが急増している、②メンテナンスが歯科医院の中だけで終わってしまったている、③在宅医療を支える歯科医療者が全面的に足りない、④一度つくられた義歯はそのまま放置されている、⑤インプラントケアは歯科以外の職種ではお手上げの状態である。

私が察するに米山先生の言いたいことは、これまでのように歯科医院に来院する患者さんを診療するだけが、歯科医師の務めではない時代になったということだろう。高齢化により歯科医院に来られない患者さんが洪水のように急増し、これまで通院していた患者さん

も高齢化していき、次々に来院患者が減っているのが現状だろう。つまり在宅、老健施設、病院で苦しんでいる歯科の患者さんが、圧倒的な勢いで増えているのだ。

今後の超高齢社会における歯科医療は、「待つ歯科医療」から「出むく歯科医療」へと変わっていくだろう。この観点から次の五つを指摘された。①不良な口腔衛生状態によって感染症を抱えている患者さんが急増している、②メンテナンスが歯科医院の中だけで終わってしまったている、③在宅医療を支える歯科医療者が全面的に足りない、④一度つくられた義歯はそのまま放置されている、⑤インプラントケアは歯科以外の職種ではお手上げの状態である。

私が察するに米山先生の言いたいことは、これまでのように歯科医院に来院する患者さんを診療するだけが、歯科医師の務めではない時代になったということだろう。高齢化により歯科医院に来られない患者さんが洪水のように急増し、これまで通院していた患者さん

も高齢化していき、次々に来院患者が減っているのが現状だろう。つまり在宅、老健施設、病院で苦しんでいる歯科の患者さんが、圧倒的な勢いで増えているのだ。

今後の超高齢社会における歯科医療は、「待つ歯科医療」から「出むく歯科医療」へと変わっていくだろう。この観点から次の五つを指摘された。①不良な口腔衛生状態によって感染症を抱えている患者さんが急増している、②メンテナンスが歯科医院の中だけで終わってしまったている、③在宅医療を支える歯科医療者が全面的に足りない、④一度つくられた義歯はそのまま放置されている、⑤インプラントケアは歯科以外の職種ではお手上げの状態である。

私が察するに米山先生の言いたいことは、これまでのように歯科医院に来院する患者さんを診療するだけが、歯科医師の務めではない時代になったということだろう。高齢化により歯科医院に来られない患者さんが洪水のように急増し、これまで通院していた患者さん

研究科長告辞

生命歯学研究科長 八重垣 健



八重垣 健

平成二十五年に文部科学省は博士論文の公表方法を改定し、本学ではこれを受けて学位論文基準を改定した。本日の大学院修了生はその最初の学位記取得者である。文科省は省令で、リポトリというウェブサイトで学位論文を公表するよう指示した。

簡単そうだがここで対処を誤ると本学の学位論文の質は大幅に落ちてしまう。そこで文部科学省の意向を汲んで、生命歯学研究科でも新たな学位

論文規程をつくるべきか議論があり、本大学院研究科は論文の質を高める決断した。やはり期待した如く、今日の新制度修了者十一名はこの急激な変化を乗り切った。

このうちの九名が国際学術誌それも優秀な証拠であるインパクトファクターをもつ国際誌八つで博士論文を公表している。たゞ残念ながら博士論文が間に合わずこの場に出席できない者が何名かいる。これが現実である。博士となるのは容易ではない。他人に博士という名のついた名刺を渡すとき、これは自分の博士論文を見せるのと一緒である。自分の博士論文に一生自信をもって名刺を差し出さねばならない。

今回の修了式では修了まで四年要するところを僅か三年で修了した者が二名いる。インパクトファクターが2.5から3.6というハイレベルな博士論文で、うち一人は博士論文以外にも二つ目の論文を公表している。

本学大学院は修了生諸君の絶大なる援助により、急激に進歩した。これだけの困難を乗り越えられたのは、急激に進歩した。これだけの困難を乗り越えられたのは、急激に進歩した。これだけの困難を乗り越えられたのは、急激に進歩した。

論文規程をつくるべきか議論があり、本大学院研究科は論文の質を高める決断した。やはり期待した如く、今日の新制度修了者十一名はこの急激な変化を乗り切った。

このうちの九名が国際学術誌それも優秀な証拠であるインパクトファクターをもつ国際誌八つで博士論文を公表している。たゞ残念ながら博士論文が間に合わずこの場に出席できない者が何名かいる。これが現実である。博士となるのは容易ではない。他人に博士という名のついた名刺を渡すとき、これは自分の博士論文を見せるのと一緒である。自分の博士論文に一生自信をもって名刺を差し出さねばならない。

今回の修了式では修了まで四年要するところを僅か三年で修了した者が二名いる。インパクトファクターが2.5から3.6というハイレベルな博士論文で、うち一人は博士論文以外にも二つ目の論文を公表している。

本学大学院は修了生諸君の絶大なる援助により、急激に進歩した。これだけの困難を乗り越えられたのは、急激に進歩した。これだけの困難を乗り越えられたのは、急激に進歩した。

論文規程をつくるべきか議論があり、本大学院研究科は論文の質を高める決断した。やはり期待した如く、今日の新制度修了者十一名はこの急激な変化を乗り切った。

このうちの九名が国際学術誌それも優秀な証拠であるインパクトファクターをもつ国際誌八つで博士論文を公表している。たゞ残念ながら博士論文が間に合わずこの場に出席できない者が何名かいる。これが現実である。博士となるのは容易ではない。他人に博士という名のついた名刺を渡すとき、これは自分の博士論文を見せるのと一緒である。自分の博士論文に一生自信をもって名刺を差し出さねばならない。

今回の修了式では修了まで四年要するところを僅か三年で修了した者が二名いる。インパクトファクターが2.5から3.6というハイレベルな博士論文で、うち一人は博士論文以外にも二つ目の論文を公表している。

修了生は、もはや歯科医師が目を背けてはいられない切羽つまった問題として、老年歯周病学を抱えている患者さんが急増している、②メンテナンスが歯科医院の中だけで終わってしまったている、③在宅医療を支える歯科医療者が全面的に足りない、④一度つくられた義歯はそのまま放置されている、⑤インプラントケアは歯科以外の職種ではお手上げの状態である。

私が察するに米山先生の言いたいことは、これまでのように歯科医院に来院する患者さんを診療するだけが、歯科医師の務めではない時代になったということだろう。高齢化により歯科医院に来られない患者さんが洪水のように急増し、これまで通院していた患者さん

も高齢化していき、次々に来院患者が減っているのが現状だろう。つまり在宅、老健施設、病院で苦しんでいる歯科の患者さんが、圧倒的な勢いで増えているのだ。

今後の超高齢社会における歯科医療は、「待つ歯科医療」から「出むく歯科医療」へと変わっていくだろう。この観点から次の五つを指摘された。①不良な口腔衛生状態によって感染症を抱えている患者さんが急増している、②メンテナンスが歯科医院の中だけで終わってしまったている、③在宅医療を支える歯科医療者が全面的に足りない、④一度つくられた義歯はそのまま放置されている、⑤インプラントケアは歯科以外の職種ではお手上げの状態である。

歯学部 告辞

生命歯学部 羽村 章



も吉田松陰の「至誠(しせい)にして動かざる者(しやう)は、未(いま)だ之(これ)を有(あ)らざるなり」という名言が出てくる。

もともとは孟子の言葉だが、この名言のあとには「誠ならずして、未(いま)だ能(よ)く動(うご)かす者は有(あ)らざるなり」と続く。これは、誠意を尽くし相手に対して純真な心で働けば、必ず人は心を動かされる、その一方で不誠実な行動では、人の心は動かないという意味だ。

卒業生のみなさんは本日(3月10日)を以てこの学舎を離れ、社会に旅立っていく。社会人として、そして医療人としての努力は今までと少し異なっている。

今NHKで放送されている大河ドラマ「花燃ゆ」で、また以前放送された約三十五人で、不足していると考えられていた。当時は歯科大学・歯学部にも多くの学生が在籍していた。私は昭和四十四年に日本歯科大学に入学したが、同級生は三百人を越えていた。現在の歯科医師数は歯科医師会のデータによれば、人口十万人に対して八十四人であり、この数値から歯科医師は過剰になったと結論づけられている。

この言葉は私たちが医療人にあてはめると、世のため人のために精一杯働いて初めて評価される、一方で一生懸命働いても自分のためだけに働いていられると評価されない、と受け取れる。昨今の医療事情、故報道などを見聞きするにつけ、関わった医療人は誠心誠意、人のために働いたか疑問に思う。

また「淮南子(えなんじ)」という中国の思想書は、「陰徳あれば必ず陽報あり」すなわち、よい行いをすれば必ずよいお返しがあるとも言っている。歯科医師として職業人として社会人として、懸命に誠実に生きていく。諸君が本日卒業の日を迎えられたことは、ご父母による物心両面にわたる援助の賜物なのだ。そしてご父母のみならず、今後は社会人の先輩として導いていただきたい。研修歯科医でも、今後は周りの人々から



新潟生命歯学部 関本 恒夫

みなさんご承知のように、ここ数年歯科医師の需給問題が論議されている。歯科医師は過剰であるとの声がかかるが、そのペースになつていないのは昭和四十四年六月に当時の厚生省が発表した「国民医療対策大綱」である。

しかしながらこの結論には少なくとも二つの問題点が存在していると思う。一つは約四十五年前の昭和四十四年と現在では歯科医療の内容が大きく変わっているという点である。単に削って詰める、あるいは抜いて返した歯科医療は、糖

ばこそ多くの人に助けられ、そして多くの人を助けることができることを忘れないでほしい。みなさん方は今後の人生で時に悩み、時に迷うことがあると思う。そのときには母校がここにあり、教職員や卒業生が集まった校友会がみなさんの力になれることも覚えておいてほしい。

問題点の二つ目は、歯科医師養成のための教育が四十五年前からは大きく変わった。当然私が学生時代だった時代の教育とは明らかに異なっている。特に共用試験があるいは歯科医師臨床研修が必修化されたこと十年間で教育の変化は大きく著しい。これは、実は笑顔一杯の君たちだった。これからは、これまで以上に多くの人たちに愛情を注いで、立派な医療人として活躍されたいと信じている。

その中に西欧先進諸国に準じ昭和六十年までに人口十万人に対して、医師百五十人、歯科医師を五十人にすると記載されている。その当時の歯科医師数は人口十万人にあ

ばこそ多くの人に助けられ、そして多くの人を助けることができることを忘れないでほしい。みなさん方は今後の人生で時に悩み、時に迷うことがあると思う。そのときには母校がここにあり、教職員や卒業生が集まった校友会がみなさんの力になれることも覚えておいてほしい。

問題点の二つ目は、歯科医師養成のための教育が四十五年前からは大きく変わった。当然私が学生時代だった時代の教育とは明らかに異なっている。特に共用試験があるいは歯科医師臨床研修が必修化されたこと十年間で教育の変化は大きく著しい。これは、実は笑顔一杯の君たちだった。これからは、これまで以上に多くの人たちに愛情を注いで、立派な医療人として活躍されたいと信じている。

人間はみな目先の利益や美しさ、名誉だけを追い求めがちだ。そんなことで本当に世の中がよく

先生と呼ばれるようになる。人間的に優れているからではなく、立場でつけられる敬称であることは卒業生は重々承知していると思う。しかし時にそのことを忘れて、尊大な態度や言動があるか

もしれないので、その時には初心に帰るよう促していたら幸いだ。一〇四回卒業生が歯科医師としてひろく社会に貢献することを祈念する。(3月11日)

NDU OPEN CAMPUS 2015

【生命歯学部】

- ①6/28(日) ②7/22(水) ③8/6(木) ④8/20(木)
 - ⑤9/12(土) ⑥10/18(日) ⑦10/31(土) ⑧11/1(日)
- 6/28 は校友会共催、7/22 は午後から多摩クリニック見学
8/6, 8/20 は、午前中に入試対策セミナー
9/12 は、午前中に模擬授業
10/18 は、附属病院見学
10/31, 11/1 は、富士見祭との併催

【新潟生命歯学部】

- ①5/9(土) ②6/13(土) ③8/6(木) ④8/22(土)
 - ⑤9/19(土) ⑥11/14(土)
- ※各回とも10:30受付、11:20開始、16:00終了予定
6/13 は浜浦祭との併催

られる歯科医師の資質にこだわった。したがって今社会に出る諸君たち、若い歯科医師は国民にとって大変重要な存在であることを意識するべきだ。そしてこの若い歯科医師たちを活用しなければ、現在の社会にとって大きなマイナスになるだろう。

しかし諸君が卒業後も従来の歯科医療と同じことを行っていたら、明らかにみなさんは過剰な歯科医師の一人となる。過剰な歯科医師と思われるか、学んだ最新の歯科医学を大いに活用し、不足している歯科医師と思われるかは、諸君のこれからの生き方に関わっている。本日卒業していく諸君が過剰な歯科医師ではなく、国民から望まれる歯科医師に成長することを期待したい。(3月13日)

は韓国や中国に比べても高いレベルにある。わが国では歯科衛生士の社会的地位は格段に向上しており、特に口腔ケアや予防歯科の知識が求められる時代となった。したがってアジアの中でも、いわゆるグローバルスタンダードの中に自分が置かれていくという立場も理解してもらいたい。これからは歯科医師同様に全身管理なども勉強しなければならない。社会が

求めるものが高まるにつれ、責任が高じてくるので、大いに頑張っていたきたい。特に専攻科のみなさんに期待している。今までは大学という加護のもとで生活してきたが、これからは本当に独り立ちになる。やること、言うことが全て自身に懸かってくる。本当に試されるのは自分なので、いい意味での大人になるよう成長していただきたい。(3月12日)



又賀新潟短大の告辞に起立する卒業生たち



3年間の学園生活に別れを告げる (3月12日)

東京短期大学 学長告辞

東京短期大学学長 小口 春久

東京短期大学は多くの

人たちに支えられ、この三年間で驚異的な発展を遂げた。本学発展の原動力になったのは、実は笑顔一杯の君たちだった。これからは、これまで以上に多くの人たちに愛情を注いで、立派な医療人として活躍されたいと信じている。

私は教育の基本は農業と同じだと思う。唐突に農業と言ったが、教育は人を育て、人の花を咲か

せて、実を結ばせることが目的であり、農業の目的と一致する。立派な花を咲かせ大きな実を結ばせるためには枝を丈夫に

しななければならない。枝を支えるためには幹を丈夫にする必要がある。幹を支えるには枝を大きくし、根を地中に深く這わすことがとても大切だ。土壌がよくなければ幾ら頑張っても美しい花や大きな実にはならない。これは地道な努力しかない。

東京短期大学では君たちが将来確実に成長する実践教育を長年にわたりに行い、多くの実績を積み重ねてきた。すでに君たちには教育の基本となる土壌が整っているはずだ。これからはみなさんがこの土壌を豊かにし、美しい



一人ひとりに学位記が手渡される (3月10日)



卒業生たちに告辞を述べる小口東京短大学長

花や大きな実をつくっていく番だ。サイは投げられた。あとは努力あるのみ、評価されるのはこれからの進んでいってほしい。今後も絶えず身体を鍛え、心を磨き、人の痛みや社会の問題を敏感に感じとらえるバランス感覚を大切に、周囲から尊敬される立派な医療人として活躍されることを祈る。(3月10日)

